

二溪の風

県立神奈川工業高校100周年

⑥

数学者で、国際基督教大学（ICU）の元学長でもある絹川正吉（機械34）は、神工教師陣の質の高さを振り返る。

「特に普通科目の先生方が優れており、私は数学の湯本登先生に大変素晴らしい教えを受けました。先生はポリオ（小児まひ）による障害がありながら、独学で教員免許を取得された秀才です」。卒業後、東京都立大学工学部に進学するが、理学部に転部し数学を専攻。この進路変更は、湯本の影響の大きさが表れている。

ICUに職を得て3年後に米

究

学

研究姿勢の底流に

国の大学院に留学。博士号を取得し、数学者として歩み始める。ICUでは8年間学長を務めた。学内の教育改革に精力的に取り組んだことで知られ、任期終了直前から5年間は文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」の実施委員長も務めた。日本の大学に多大な影響を与えた予算総額150億円を超える一大プロジェクトだ。



神崎 彰利 さん



絹川 正吉 さん

「数学の研究以外に、こうした大学行政にも携わったのは、実業高校である神工で育まれた実学の精神によるものと思います。神工は私の人生の通奏低音でした」

歴史家で相模原市立博物館特別顧問の神崎彰利（電気37）は入学の翌月、横浜大空襲に遭う。生徒は登校後すぐに帰宅を命じられ、自身は東神奈川駅から横浜線に乗車。「その電車が小机駅に着くまでに横浜も校舎もすべて焼けました」

戦後は歴史への興味が開かれた。「荒井（旧姓・矢島）正治先生と大木（同・大工原）光夫先生のおかげです。荒井先生には初めて民俗学を教わった。大木先生は、最新研究に基づいた

『日本の歴史』（毎日新聞社）を毎朝読んでくれた。いずれも皇国史観とは違う庶民の歴史で、大変な衝撃を受けました」。卒業後は、明治大学で江戸時代の古文書から庶民の歴史を明らかにする研究に取り組む。電気科とは畑違いの分野だが、「神工で学んだ独立独歩の精神を発揮して、正面からぶつかりました」。

やがて明治大学に勤務しながら、県史の執筆委員や、相模原、厚木、大和など県内6市の市史編さん委員を歴任する。相模原市立博物館の設立には準備段階から関わり、1995年の開館と同時に初代館長に就任した。古文書を研究する際、文面のみならず、書かれた背景からも読み解く手法は理系出身ならではの。根がやはり理系なのだろう、息抜きは物理関係の本を読むことという。

敬称略、（ ）内は専攻科と通算卒業期